



風雅に誘われ、

さあ、発見の旅へ。

「西へ流れる時に平家は滅び、東へ流れる時に維新ののろしが上る。」と謳われた関門の急流とともにある下関。そこには数えきれないほどの物語が



《下関のおもな見どころ》

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 赤間神宮…………… 歩いて1分  | 覚苑寺(長府)…… 車で13分 |
| 国立公園火の山…… 車で5分   | 下関市立美術館…… 車で10分 |
| 長府武家屋敷…… 車で10分   | 東行庵…………… 車で20分  |
| 国宝功山寺(長府) 車で10分  | 国宝住吉神社…… 車で15分  |
| 乃木神社(長府)…… 車で10分 | 海響館…………… 車で3分   |

書帆楼  
SHUNPANRO

Phone.0832-23-7181 Fax.0832-32-7980

4-2 Amidajicho, Shimonoeki, Yamaguchi 750-0003 Japan

〒750-0003 下関市阿弥陀寺町4-2

ホームページアドレス <http://www.shunpanro.com/>

お申し込み お問合せは

明治二十一年ふく料理公許第一号  
明治二十八年日清講和条約締結会場  
昭和三十三年昭和天皇・皇后両陛下ご宿泊  
昭和三十八年昭和天皇・皇后両陛下ご宿泊  
昭和三十八年皇太子殿下ご休憩

下関

割烹旅館

書 しゅん

帆 ばん

楼 ろう



伊藤博文書



春の海を、漂う帆船：  
 静寂と時の  
 移ろいを、感じる宿



あり、歴史絵巻・下関の旅情も最高潮です。

数々の歴史の表舞台となった関門の急流を望む春帆楼。その名も「春の海の帆船」を心に描いて伊藤博文公が名付けました。

時あたかも時代の激動期で維新の志士をはじめ、内外の賓客が多数来訪しています。付近には源平の哀史を秘めた史跡もあり、歴史絵巻・下関の旅情も最高潮です。

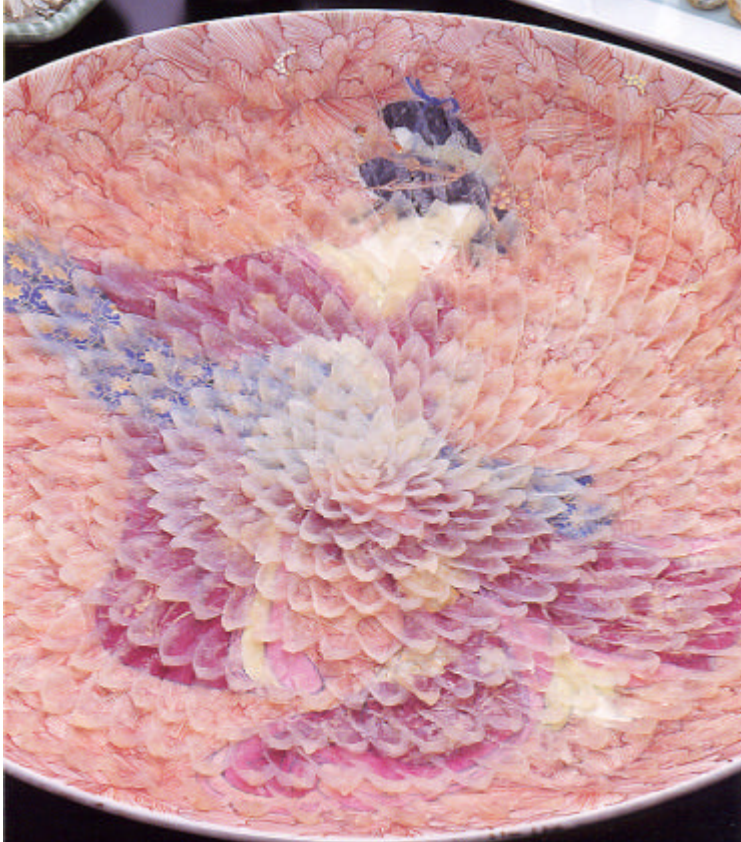
時は流れて、歴史の夢回廊に移ろう季節を華やかに映す

春帆楼が歴史のページを飾る場となった証しが、日清講和記念館。時代が揺れ動く明治二十八年、日本側から伊藤博文、清国側から李鴻章、両国の全権団が集まって開かれ、十一ヶ条からなる講和条約がここ春帆楼で締結されました。

その当時は偲ぶ椅子やテーブル・硯など会談の場をそのまま保存しており、資料も多数展示されています。あなたもタイムトンネルをぬけて、時代の旅人になってみませんか。



日清講和条約調印式



# 深い緑に 黄金の薨



喫茶・ラウンジ(心遊)

## 和の佇まいに機能美 伝承の心で

明治調のたおやかなガス燈のあかりのもと、ぬれたみかげ石畳に歩を進めると、日清講和条約当時の姿に見事に復元された春帆楼。黄金色の瓦が映え、その荘厳なたたずまいが時代を偲ばせます。

最上階の天皇・皇后両陛下の御座所「帝の間」はそのままだ再現、眼前に広がる九州の山並と、関門海峡の流れを前に、ひと味違う旅のロマンをご堪能ください。



ロビー

## 「ふく料理店」公許第一号、 関門名物の冴えた珍味で おもてなし。

下関は新鮮な海の幸の宝庫。なかでも味覚の王者“ふく料理”は逸品。そのふく料理も、明治二十一年に伊藤博文公が春帆楼で食べたのを契機にご禁制が解かれ、春帆楼がふく料理公許第一号の栄誉を担ったわけです。

下関ではふぐを“福”に通じるということで「ふく」と呼びますが、ふくの中でも最上のとらふぐを、錦皿の絵模様がすけて見えるほど薄く引き、菊盛り・鶴盛りなど趣向を凝らして盛りつけます。その他にも、うにははじめ鯛、かれいなど、本場下関ならではの技と味で、旅人の旅情をなく



さめます。



開門橋



大広間（講和の間）



客室（環）



昭和天皇・皇后  
両陛下御座所  
（帝の間）

静かに広がる  
くつろぎと、やすらぎの宿。

ご宿泊はゆつくりと旅情をひもとけるような  
広々設計の部屋ばかり。どのお部屋からも開門  
海峡を一望でき、宝石をちりばめたような夜景



客室（早瀬）

など、その眺望  
は格別です。ご  
宴会や、ご披露  
宴に、大広間や  
当地随一の和室  
大広間もござい  
ます。全館格調  
と気品高い雰囲気  
の中、貴方様  
のご来館をここ  
ろからお待ち申  
しあげておりま  
す。



大宴会場（鳳凰の間）